

編 集 後 記

今村先生の「リハビリテーションに思うこと」の終りに述べられている“当然のことがわかるのに時間がかかるのもまた当然”の一節をしばらく口の中で繰り返すふやいているのに気がついた。1つは社会の常識となるまでに時間がかかる場合、もう1つは社会の常識として知られていても各々の人にはなかなか身にしみて理解できない当然のこともあるだろう。どちらの当然のことも、リハビリテーション界には山積されている。「総合リハビリテーション」に記された名文句の1つと思う。

今回の特集はファシリテーション・テクニックである。アイズマン氏は Kabat らの体系, Brunnstrom については松村氏, Bobath については紀伊氏, Vojta については中島氏が述べておられるが、いずれもその紹介者として非常に適任であり、内容の豊かなものとなった。しかも各々の著者がその特性を発揮しておられるため、講義のようなもの、実地指導のようなもの、理論的なものなどが混ざり、恐らく読者は退屈することなしに読み終えられたことと思う。さらにファシリテーション・テクニック雑感として服部、江口、中村の諸先生の短文があり、これがまた興味深い。服部先生の文の終りの三行、江口先生

の“CP 児の機能障害を どう理解するかという訓練する側の意識のレベル”, 中村先生の理学療法に必要な基礎科学としての三綱目、いずれもその道の造詣の深い方の述べられたことだけに、ぼんやりと考えていたことの一部を強い光で照らし出されたような感じがした。上田先生の総論も含め、この特集は大変興味深いものとなったように思う。

身体障害者手帳の診断書や各種年金の診断書に記入して思うことは、角度の記載の方法がいろいろで、まちがえないためにかなり注意していなければならない。リハビリテーション医学会および整形外科学会で角度の記載法が定められたことの意義はこのような点でも大きく、各種診断書の記載法もできるだけ早く統一してほしいものである。

森氏の論文は昨年のリハビリテーション医学会が受けた感銘を再び呼び起こした。リハビリテーション医学においては、患者治療上、パターン化をできるだけ避け、1例、1例について慎重に検討して行くべきであろう。

終りになってしまったが、塚本氏の論文、物井氏の講座などもさらに本誌を盛りだくさんなものにしている。(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
荻 島 秀 男
土 屋 弘 吉
横 山 巖

編集同人

赤 津 隆
青 山 孝
今 田 拓
今 村 哲 夫
江 口 寿 栄 夫
小 野 啓 郎
河 邨 文 一 郎
金 久 卓 也
兼 松 英 夫
五 味 重 春
沢 村 誠 志
杉 山 尚
中 村 裕
野 島 元 雄
間 得 之
長 谷 川 恒 雄
橋 倉 一 裕
平 方 義 信
三 島 博 信
山 内 裕 雄
渡 辺 英 夫
飯 田 卯 之 吉
遠 藤 千 恵 子
小 川 孟
加 藤 一 郎
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
陳 慧 玉
野 本 卓
(以上五十順)
(順、敬称略)

(細田、田村、鹿島)

次 号 予 告 (第 3 卷 3 号)

特 集 視覚障害のリハビリテーション

視覚障害者の現状と失明予防……………	順大	赤 松 恒 彦・他
盲人用具とその活用……………	国立特殊教育研	小 柳 恭 治
視覚に障害のある児童生徒の教育について……………	東京教育大	大 川 原 潔
中途失明者の社会適応……………	国立東京視力障害センター	田 中 一 郎
中途失明と社会復帰……………	都身障福祉センター	村 中 義 夫
視覚障害者(中年層まで)の社会復帰……………	日本ライトハウス	岩 橋 英 行
座談会: 視覚障害者の社会復帰をめぐる……………	中 島 章・他	
講 座 言語障害のリハビリテーション (10)……………	都老研	福 迫 陽 子